

## 京終・紀寺

京終やまぼうし  
登録有形文化財  
吉岡家住宅  
(よしおかけじゅうたく)



奈良町の  
ちょっといいところを  
見て知る秋の1週間  
—きたまち・ならまち・高畑・京終・紀寺—  
奈良町見知りル

### ①歴史・概要

この辺りは奈良町の南端部で、かつては農家が建ち並び、京終駅の南には昭和30年代頃まで水田が広がっていました。

当住宅の主屋(おもや)と渡廊下(わたりろうか)は昭和10年(1935)に建てられました。

主屋はつし2階(2階の軒高が低い民家形式)の外観で、東を通り土間とし、西に居室を一系列に並べます。わら葺屋根の農家住宅を建て替えたものとみられますが、その面影はなく、すっかり町家の造りになっています。ガラス障子を多用するなど、近代住宅の特徴をよく示しています。

渡廊下も整然とした意匠で、町家の中庭空間を構成しています。

元は、奈良の興行界や観光振興に大きな足跡を残した谷井友三郎(1901~1979)の実家・藤井家の住まいであり、友三郎ゆかりの建物としても知られています。

平成28年(2016)に主屋と渡廊下が国の登録有形文化財に登録されました。

#### 谷井友三郎(たにいともさぶろう)

明治34年(1901)~昭和54年(1979)。戦前から戦後にかけて、博覧会・映画館等の事業や、観光振興、市・県議会等で広く活躍しました。

この建物の場所にはかつて友三郎の生家がありました。



### ②見どころ:ガラスを多用した近代町家

建てられたのは昭和10年(1935)。明治以前の町家にはない特徴を備えています。例えば建具。雨戸はなく、ガラスを多用して光を取り込み、明るい室内空間を実現。透明ガラス以外に摺りガラス・型板ガラス・風景ガラスも使い分けています。土間空間を、製材した角材で整然と構成する点も近代的。正面の格子が細い点、出入口をガラス障子の格子戸とする点も新しい要素です。

しかし、2階正面を虫籠窓(むしこまど)とする点だけは、年代の割に古い形式…もしかすると、防火や防犯を重視したのかもしれませんがね。